

京都における特別科学教育学級の授業と生徒のその後
The Lesson of “the Experimental Class for Science Education”
and the Career Paths of Pupils in the Class in Kyoto

田中紀子

Tanaka Noriko *

Abstract

Following a decision of the Ministry of Education, “the Experimental Classes for Science Education” were formed in four cities of Japan in the near end of the World War II. The one of the Experimental classes were established in the Kyoto-Prefectural Kyoto First Secondary School, one each in the 3rd, 2nd and 1st year. In addition to the actual management of the class, the content of the lessons and the career paths of pupils in the class are described. I will once again shed light on the Experimental Class for Science Education, and make use of a part of science and technology education in Japan in the future.

§ 1. はじめに

本稿は、京都における特別科学教育学級について調査したものであり、「京都における特別科学教育学級の記録」（田中，2021）の追調査報告である。第2次世界大戦末期，昭和20年，東京・広島・金沢・京都で特別科学組は設置された。その目的は，英才を選抜して，科学技術研究を担う人材を早期に育成するためであった。敗戦後の昭和23年3月で打ち切りとなり，わずか3年程の実験的な学級となった。

今回，特別科学教育学級の存在していた京都府立京都第一中学校に関わる京一中洛北高校百年史，京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組会誌，元生徒の証言や当時の資料を中心に調査した。科学組の実際の運営や授業の内容，生徒のその後（進学先等）の報告をするとともに，特別科学教育学級の在り方に関する考察を行う。実験学級とも言われた特別科学教育学級の実践にいま一度光りを当て，今後の日本における科学技術教育にその内容の一部を活かすことができるのではないかと考えた。

Received October 31, 2021; Revised February 27, 2022.

2020 Mathematics Subject Classification(s): 01A27,01A60,01A72,97A30

Key Words: History of Japanese Mathematics, History in mathematics education, Experimental Class for Science Education.

*愛知県立旭丘高等学校

email: tanaka-nagoya@y5.dion.ne.jp

§ 2. 特別科学教育学級の授業について

(1) カリキュラム

時間割は、元生徒の自宅で保管されていたものである。学制に昭和19年「3.28 学校における休業日に関して定める(日曜日の授業を認める).」とあり、日曜は隔週で授業を行っていた。直接戦争に繋がる軍事的内容の授業は行われず、学問内容の教授が行われていたことが分かっている。

昭和20年5月26日発表の京都特別科学学級3年生用の時間割

時限	月	火	水	木	金	土	日
1	生物	物理	化学	漢文	化学	英語	地質鉱物
2	数学演習	物理	化学	武道	化学	工作	地質鉱物
3	数学演習	国語	教練	物理	修身	歴史	英語
4	代数	幾何	地理	物理	教練	国語	体操
5	教練	幾何	代数	体操	英語	生物	
6	図画	生物	英語	幾何	代数	生物	

表1 特別科学教育学級時間割

昭和二十一年度 授業時数・担当教員

教科	正規学級	特別学級	担任者(カッコ内は嘱託)
公民	32	4	奥田, 今村
国漢	186	10	浜中, 高橋, 長谷川, 古池, 首藤, 中村, 田中重, 赤尾, 蜂矢, 榎
地歴	96	8	吉原, 井上, 入江, 辻田, 植村
数学	192	31	谷口, 今井, 森脇, 村岡, 田中澄, 八田, 澄田, 山上, 家村, 鈴木, 小林, (家村清)
物象	153	28	竹内, 谷口, 佐々木, 市, 酒井, 国安, 竹井, 松岡 (岡本, 河原林, 大木, 工藤, 今川, 野間)
生物	64	14	荒木, 千葉, 大垣, (千野, 奥野)
体操	45	4	秦, 辻元, 桜井
音楽	13	1	堀口
書道	6	1	岡本
図画	26	4	岡本, 安江
工作		6	(小橋)
作業	13	2	正垣
英語	192	19	岡田, 川井, 早田, 服部, 中井, 青野, 田下, 多久和, 菊野, (滝山, 石田, 村上)

表2 昭和二十一年度正規学級・特別学級授業時数・担当教員

卒業成績表 (手書き)

学年	組	国民科		理科		体育科		音楽科		図工科		外国語科		修業	在籍人員	席次	及落	出席統計			月通知	組主任	保護人	卒業評語
		国語	歴史	数学	物象	体	武	音	書	図	工	英語	作文					開校日数	休校日数	出席日数				
第三学年	七組																							秀優良可不可
第四学年	七組																							席次評語

図1 特別学級(第三学年七組, 第四学年七組)通知簿

表2は、昭和二十一年度の授業数、担当教員である（京一中洛北高校百年史、1972）。正規学級では、数学、英語、国語、次に物象の授業時数が多く、特別学級では、数学、物象が抜きんでており、英語の授業時数も多い。数学、物象、生物の合計授業時数が31+28+14=73時間であり、その他の総授業時数が59時間で、理数が突出していることが分かる。また、関わる教員数は物象が14名と最多で、嘱託職員も多く、特別学級の指導に関わった今川先生、野間先生の名前もある。次に多いのが、12名の数学と英語である。戦中も理数と英語の教育に力を注いでいたことが分かる。

また、昭和二十一年度の在籍者数は、正規学級の1クラスの生徒数が50人～60人の規模であるのに対し、特別科学教育学級の生徒数はその約半分の23人～30人であった（京一中洛北高校百年史、1972）。特別学級では、自由研究などの生徒主体の探究的な学びが積極的に行われ、自由研究発表会も実施されていた。個々の生徒に細やかな指導ができるよう、学級規模も配慮されていたことが窺える。

図1は、生徒の自宅で保管されていた当時の第三学年七組、第四学年七組の通知簿である（七組が特別学級）。昭和20年5月の特別科学教育学級時間割（表1）と、昭和21年度正規学級・特別学級授業時数・担当教員（表2）から、教育課程上は、第3学年から第4学年に変わるときに、武道・修身・教練がなくなり、音楽・書道が始まったように捉えることができる。しかし、通知簿をみると、第3学年時、第4学年時のいずれにおいても、武道・教練にも音楽・書道にも成績が付けられていない。（修身は第4学年時に成績が付けられていたようである。）本論文3章に掲載する元生徒インタビューでは「音楽、書道、武道は全く授業が行われなかった。教練は戦時中の必須科目で、三八式歩兵銃の重さと相まって強烈な記憶があるが、通知簿には評点がない。」と語っている。また、京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組会誌に書かれた時間割（表1）に関する元生徒のコメントには「8月15日の終戦を境に教練・武道・修身がなくなり、歴史の授業も一旦はお預けになったはず、それに、日曜日の隔週授業もなくなったはず。したがって、この時間割は何度も修正して行った、あるいは、別の時間割で置き換えられたはずですが、それはできません。」とある。学制の昭和20年8月から昭和21年度（昭和22年3月）までの関連する項目には、下記のように書かれている。

昭和20年（1945）

- 8.15 終戦の詔書録音放送（太平洋戦争終る.）.
- 8.15 文部省、終戦の詔書に関して訓令し、教学の再建を要望.
- 8.16 学徒勤労働員解除.
- 8.21 戦時教育令廃止決定（以後、この方針に基づく各種通達を出す.）.
- 9.2 GHQ（連合国軍最高司令部）を横浜に設置（9.17 東京に移転）.
- 9.12 国民学校および中等学校に対し、戦時教育から平時教育への転換のための緊急事項を指示.
- 9.15 文部省、「新日本建設ノ教育方針」を発表.
- 10.6 「戦時教育令」を廃止.
- 10.22GHQ（連合国軍最高司令部）、「日本教育制度二対スル管理政策」を指令（教授内容の改訂、教育者の調査追放等）.
- 12.31GHQ、「修身、日本歴史及び地理停止二関スル件」指令（授業停止、従来の教科書の収集破棄、新教科書の作成を指令）.

昭和 21 年 (1946)

- 2.23 「国民学校令等戦時特例」を廃止.
- 2.23 中等学校令等改正 (中等学校 5 年制, 高等学校および大学予科 3 年生復活).
- 3.6 米国教育使節団来日.
- 4.7 GHQ, 米国教育使節団報告書を発表 (戦後教育改革の基本方向を明示).
- 5.15 文部省, 「新教育指針」第 1 分冊を発行配布 (6.30 第 2 分冊, 11.15 第 3 分冊, 昭和 22・2・15 第 4 分冊発行)
- 6.14 食糧危機突破のための夏休み繰り上げ, 授業短縮等について通達.
- 9.7 教育刷新委員会第 1 回総会開催.
- 9.10 国定教科書「くにのあゆみ」を発行.
- 10.8 勅語および詔書等の取扱いについて通達 (式日奉読の停止, 神格化の排除).
- 11.3 「日本国憲法」公布.

昭和 22 年 (1947)

- 2.5 文部省, 新学制実施方針を発表 (小・中学校は 22 年度, 高等学校は 23 年度, 大学は 24 年度から実施).
- 3.20 学習指導要領一般編 (試案) 発行.

実際の授業は, 当初設定した教育課程そのままのカリキュラムで実施されていたわけではなく, 教科教授の授業に読み替えられたり終戦を境に変更されたりしたと考えられる.

特別科学教育学級の設置されていた昭和 20 年からの 3 年間は, 京都帝国大学から特別科学教育学級の班長である理学部長 駒井卓教授や幹事である湯川秀樹教授も「特別科学班打合せ」や講演会, 授業参観等で頻りに来校していたことも分かっている.

(2) 自由研究

「テスラ電流デノ実験」は, 元特別科学教育学級の生徒の自宅に保管してあったものである. 4 人のグループで行った自由研究で, 目的として, 「テスラコイルを用いて高圧高周波電流を発生せしめ, その簡単な実験をなし, 高圧高周波電流の概念を得ること」とある. 方法として, 「テスラコイルは電気共鳴を利用し高圧・高周波電流を得る装置にして[Fig.1]に示すごとく induction coil, secondary coil の両端に condenser C 及び primary coil を連結す. Induction coil を動作させ, primary coil に振動電流を起こさせると secondary coil に tesla 電流を得る.」とし, 7 つの実験を行っている (図 2-1, 図 2-2).

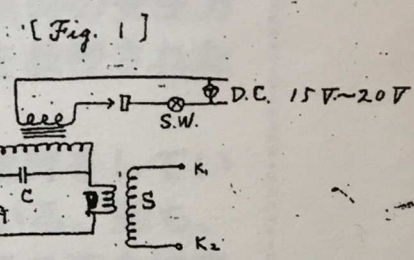
テスラ電流の實驗

三年下組



目的 Tesla coil を用ひて高壓高周波電流を發生せしめ、その簡單な實驗ヲ以て高壓高周波電流の概況ヲ得ルコト。

方法 Tesla coil の電氣共鳴ヲ利用し、高壓、高周波電流ヲ得ル裝置ニシテ (Fig. 1) = 示スゴトシ、induction coil, secondary coil, 兩端ニ condenser C 及ビ primary coil ヲ連結ス。induction coil ヲ働かせ、primary coil = 振動電流ヲ起サセルト secondary coil = Tesla 電流ヲ得。茲ニ次實驗ヲナセリ。



- Expt 1. K₁, K₂ = 同心円形導線ヲ連結シ brush discharge ヲ行ハシム。
- Expt 2. K₁, K₂ = 平行導線ヲ連結ス。
- Expt 3. K₁, K₂ 間ヲ放電ヲナストキ指ヲ K₁, K₂ 間ニイレル。
- Expt 4. K₁, K₂ 間ニ Alcohol lamp ヲ置ク
- Expt 5. K₁, K₂ 間ニ 放電管ヲ連結ス。
- Expt 6. K₁, K₂ 間ニ 導体ヲ置ク。
- Expt 7. K₁, K₂ 間ニ 絶縁体ヲサヘキル。

- note 1. ナシ得ル限リ直線的ニ連結スルヲ可トス (self-inductance 上ヲ考ヘズ)
- note 2. gap 長ガ隔電スル爲メ、不完全ナリトモ、導線ニテ 概テ 0.5mm 程度ノ gap ヲ作レリ。
- note 3. 電源電圧ハ絶えず變動スル故、終始 Voltmeter ニ注意ヲスルヲ要ス。

結果と考察

Expt 1. 環状銅線ヲ圍、如ク取テ、induction coil, 開閉器ヲ閉ス。然ルレバ銅線ノ周圍ニ一様ニ放電スルヲ見ル。尚銅線ノ間隔一様ナラバ、間隔小ナル部分ニ放電スルヲ見ル。而シテ銅線ノ間隔 4cm ヲ起スレバ放電セザルヲ見ユ。暗室中ニ於テハ 6cm 近ニ放電ノ微光ヲ見ル。放電ノ色ハ赤紫ト思ハル、コレハ 空氣中ニ存在スル窒素瓦斯 K₂ = 0.4 E⁺ ナリ。

Expt 2. 平行銅線ノ場合、Expt 1 ト同様ナリ。即チ間隔一様ナラバ、放電ハ銅線ノ周圍ニ行ハレシモ、一様ニ放電スルニ非ズ。

Expt 3. 指ヲ K₁, K₂ 間ニ置カバ、放電ハ指ヲ經テ行ハル。所チ放電ノ直線的ニ行ハレシトモ、予ヲ接近セムレバ放電ハ予ニ導カレ屈曲ス。然ルレバ予ヲ刺サレテ、即チ高周波電流ハ身体表面ヲ流シ、直接人体ニ影響ヲ及ボス。

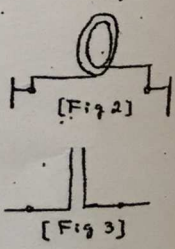


図2-1 自由研究レポート

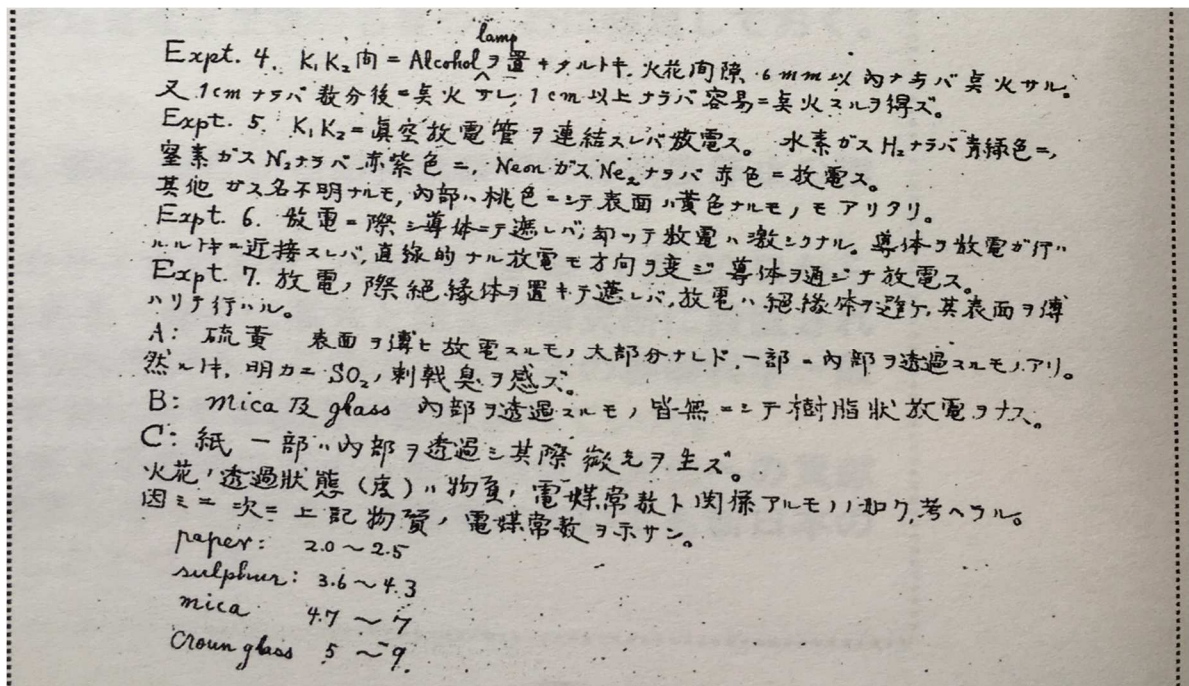


図2-2 自由研究レポート

京都府立京都第一中学校特別科学教育学級教務日誌によると、戦時中も講演会や実験・実習、自由研究の授業がたびたび行われていた。これらについて書かれた部分を抜粋する。なお、三7が特別科学教育学級である。

昭和二十年

五月二六日 (土曜) 晴天 第一限 湯川博士講話
七月四日 (水曜) 三7 臨湖実験所見学
七月一〇日 (火曜) 晴 三7 臨湖見学 奥野氏引率
八月二十七日 (月曜) 駒井班長講話 九, 00—二, 00 於博物講義室
聖上陛下ノ生物学御研究並ニ特別学級ノ進ムベキ途ニ就テ
九月六日 (木曜) 三7 物理実験 野間氏 一, 00 三高前二集合
九月一三日 (水曜) 京大田中教授ノ許へ液体空気ノ実験見学ニ赴ク
十月二七日 (土曜) 講話 九, 00—
駒井博士 (科学精神ト自由精神)
十一月一日 (木曜) 植物採集 奥野氏引率 京大
一二月七日 (金曜) 京大 田中正三博士講演 一三, 00— 物理講義室

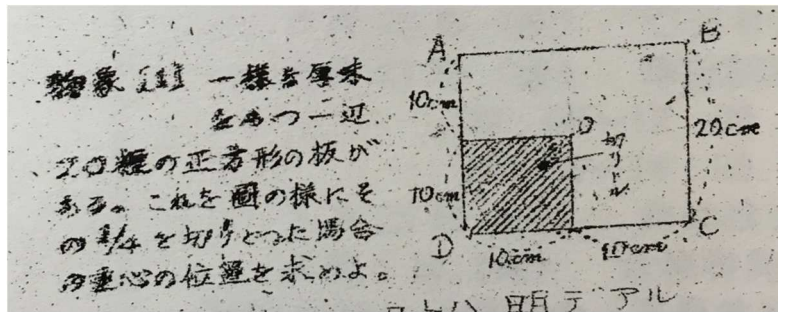
昭和二十一年

二月二日 (火曜) 工専教授 青木一郎氏講演
二月二日 (木曜) 京大 内久保博士ノ鈹物ニ関スル講話 午後一, 00—
「鈹物ノ起源」
五月一〇日 (金曜) 植物採集 奥野氏 引率
五月三〇日 (木曜) 特別学級講話 (九, 00—)
五月三十一日 (金曜) 京大教授 宮地伝三郎氏講話 (一〇, 00— 於 講堂)

「動物ハドウシテ仲間ヲ認メルカ」 前日二繰上ゲ
 研究班例会 (一, 三〇一) 自由研究発表
 一〇月三十一日 (木曜) 田中氏講話「新憲法ハドウ変ワルカ」 (一〇, 〇〇一 一二, 〇〇)
 井上先生講話「正倉院御物ニ於テ」 (九, 〇〇一 一〇, 〇〇)
 昭和二十二年
 十月一五日 (水曜) 駒井博士講話 (午前一〇 — 一二) 実験学級
 十一月一日 (土曜) 四時限目 自由研究第一回

(3) 試験問題・プリント

教科書は存在せず、また、極端な紙不足だった。元科学学級の生徒の持ち物の中にあつた試験問題やプリントの一部を紹介する。



ア) 物象試験問題

物象1 一様な厚味をもつ一辺20cmの正方形の板がある。これを図のようにその1/4を切り取った場合の重心の位置を求めよ。(図3)

図3 物象試験問題

物象3 不連続線に伴なふ雨の成立を述べよ。

物象4 或る石灰水50ccを中和するに(1/10)Nの塩酸14.55ccを要したといふ。この石灰水の1ℓに幾らの消石灰が溶けていることになるか。但し、Ca=40とす。

イ) 数学プリント

1/2周の長さをL, 面積をMとすれば,

$$M = a(L - a) + \frac{1}{2} \left(\frac{L - a}{2} \right)^2 \times \pi$$

$$= La - a^2 + \frac{(L - a)^2 \pi}{4}$$

$$= La - a^2 + \frac{(L^2 - 2aL + a^2)\pi}{8}$$

$$8M = 8La - 8a^2 + L^2\pi - 2aL\pi + a^2\pi$$

Mを最大ならしむるには8Mを最大ならしむる。

よって8Mをaについて微分すれば

$$(8M)' = 8L - 16a - 2L\pi + 2a\pi$$

$$(2a\pi - 16a) = 2L\pi - 8L$$

$$a(2\pi - 16) = L(2\pi - 8)$$

よって

$$\frac{L}{a} = \frac{2\pi - 16}{2\pi - 8}$$

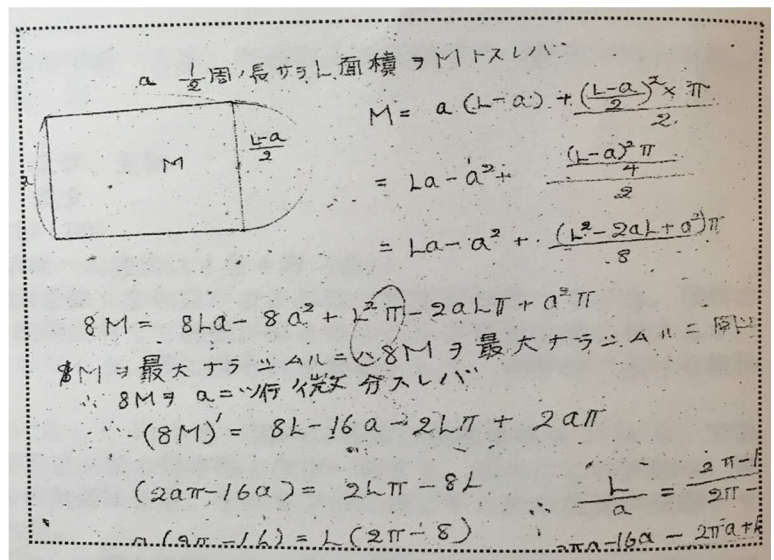


図4 数学プリント (解答の一部)

ウ) 生物の試験問題

1. 生物の呼吸の意義
2. 梅雨中, 雨天曇天が続いたあと急に晴天になると農作物が萎れるのは何故か. その原因を考察せよ.

エ) その他教科の試験問題

- ・世界に於ける最も著名な文学書五つをあげて, これを簡単に説明せよ. (国漢)
- ・都市はどんな所に発達したか.
- ・世界に於ける主な宗教を挙げ, その教祖, 経典, 並びに後世に及ぼせる影響を略述せよ.
- ・十二月二十一日早朝, 和歌山, 四国地方に大地震が起こり, 死傷者多数を出し又此の寒空に住む家を失った者も多く実に気の毒です. (和文英訳)

§ 3. 元生徒インタビュー・資料

片岡宏氏は, 京都の特別科学学級の第一期生である. 以下は, 「京都帝国大学主導の特別科学教育について」(片岡, 2005)とインタビュー調査の内容に基づいている.

(1) 受験

当時, 特別科学教育学級の受験にあたっては, 奈良県立郡山中学三年生であった昭和20年4月28日(土), 勤労働員先(奈良県柳本町の海軍航空隊の飛行場設営)から, 担任の教諭とともに校長室へ呼ばれて向かい, 校長から「特別科学教育学級に推薦した」旨の報告を受けた。「明日からは勤労働員の現場へは出勤せず, 受験勉強に専念せよ」と指示された. 中学特別科学教育学級の入試は5月8日からであり, 準備期間は僅か9日間であった.

受験科目は, 物象, 生物, 数学で, 心理検査もあった. 直前の勉強では, 数学や理科の公式や法則, 化学反応式などの暗記をし, 天体運行と暗号解読に山をかけ, 知能テストの本を拾い読みしたそうである.(結果的に, 山は的中したそうである.) 筆記試験が5月8日, 第1次発表が5月10日にあり, 合格者には11日に身体検査と口頭試問, 12日の午前中に心理検査, 同日午後に最終合格者30名が発表された. 湯川秀樹教授や駒井卓教授が口頭試問の試験官であったため, 「雲の上の神様」から質問をうけるような心境だったそうである.

(2) 入学式と学級編成

入学式は昭和20年5月21日午前10時から京都一中の講堂で行われた. 来賓の湯川教授が毛髪をポマードで丁寧に整髪しておられたこと, 新井知事が陸軍将校用の乗馬靴姿であったことが記憶に残っている. その翌日から授業が始まった. 中学3年生以上は軍需工場へ動員され, 1, 2年生も授業停止(昭和20年3月8日文部省通達)で農業生産活動(食糧増産)などに従事していたため, 京都一中の校舎で学んでいたのは, 特別科学組(いずれの学年も7組)の3学年86名のみであった. 入学時点の生徒数, 担任は下記である.

- | | | | | |
|------|-----|----|------------|-------------|
| 三年七組 | 30名 | 担任 | 竹内鐵二教諭(化学) | [教頭が組担任を兼任] |
| 二年七組 | 26名 | 担任 | 今井敏夫教諭(数学) | |
| 一年七組 | 30名 | 担任 | 岡田幸一教諭(英語) | |

その後昭和20年7月5日に奥野春雄教諭(生物)が着任され二年七組の担任に, 9月6日に

澄田道直教諭(数学)が海軍兵学校教官から帰任され一年七組の担任に、昭和21年春に三年七組が四年七組になった時点で、台湾から復員された服部英二教諭(英語)が担任となった。第2期生については、その年度に三年生の正規学級が1クラス増加し7クラスとなったため、三年七組ではなく三年八組になった。新しい担任の先生方は、特別科学教育学級が解散されるまでその組を受け持たれた。

第1期生は、帰省や上級学校進学(9名が4年修了で三高へ入学)のため昭和22年3月末では当初の30名が15名に減少し、その補充のため新たに15名が編入され、合計30名の新編成で五年七組となった。第2期生にも転出者や、1名の転入生(昭和21年4月に広島高師附属中学校の科学組から)があり、昭和22年3月末では当初の26名から22名となっていた。その補充のため新たに10名が編入され、合計32名の新編成で四年八組となった。第3期生も同様な理由により、同じ時点で当初の30名が26名となっており、その補充のため7名が編入され、合計33名の新編成で三年七組になった。この学級編成はそのまま1年続き、昭和23年3月末に学制改革により旧制中学がなくなり、その結果として「京都一中」の特別科学学級が法制上からも存続不能となるまで継続する。

(3) 生活

京都の街も数回の空爆を受けた。特に6月26日(火)の京都市西部の三菱重工業(戦闘機のエンジンなどを生産)への爆撃は物凄く、約10キロ離れた学校の教室まで強烈な振動音が響き渡った。

戦争末期の中学上級生は、全て軍需工場に動員され、下級生も授業は停止し、農業生産活動などに従事していた。京都一中の場合は、建物の一部は工場となっており、教室も一部が衛生材料倉庫に当てられ、教室を覗きに行くと、包帯や医療に関わるような物品が保管されていたということである。それ以外は空き教室になっていた。

片岡氏は、特別科学教育学級に入る前は、毎日のように飛行場の設営、防空壕の穴掘り、松根油採取などの重労働に明け暮れていた。突如として肉体労働とは全く無縁の座学に終日専念することになり、日常生活の急激な変化で、運動不足による健康障害等を恐れたようである。第1期生の学級担任であった竹内教諭も、新学期冒頭の生徒への注意事項として、適切な運動を今後とも継続するよう指示をし、生徒の健康障害を憂慮しておられた。

食糧事情は最悪だった。食糧や医薬品が極度に不足していた当時は、栄養と健康は勉学を超越するほどの重大事であった。自宅通学が不可能で下宿せざるを得なかった生徒の場合は、親元を離れての一人暮らしは辛苦であり、中でも外食券食堂での食事の貧困さは恐るべきものであり、日曜日は実家へ戻って栄養補給するのが毎週の定例行事だった。

(4) 特別科学教育学級の実際

特別科学教育の具体化については、駒井卓教授と湯川秀樹教授の絶大な熱意と尽力があったと言われている。駒井卓教授は、理学部長かつ特別科学教育班の班長という立場もさることながら、それを超える熱意で取り組まれた。湯川秀樹教授も入学したばかりの特別科学教育学級の生徒に対し、昭和20年5月26日に「特別科学教育に就て」という講演を行っている。また、特別科学教育研究班の会議は、頻繁に行われていた。

生徒の立場からみると、性格や年齢から、まだ若かった湯川秀樹教授は、やや厳しい父親の

存在、班長で理学部長だった駒井卓教授は、とても優しいおじいちゃんといった感じの存在だったそうである。教務日記には昭和20年11月1日に「植物採集 奥野氏引率 京大」の記事が残っていて、駒井教授がご指導なされたようである。片岡氏の語った駒井卓教授のエピソードを紹介する。ある日、特別科学教育学級の宿題の植物採集をしようと、友達と京都帝国大学の駒井卓教授の研究室を訪れ、「植物採集をしたい」旨を伝えた。駒井教授は、京都帝国大学が所有する植物園を紹介し、片岡少年は、そこで珍しい植物を採集して、宿題として提出して、先生に驚かれたということである。（湯川氏は昭和56年9月8日に74歳で、駒井氏は昭和47年7月9日に86歳で逝去されている。）

特別科学教育学級では、屋外研究施設へ出かけることも頻繁に行われた。臨湖実験所（大津市）ではプランクトンなどの採集や観察実験（昭和20年7月4日、7月10日）が行われ、理学部化学教室の田中正三教授研究室での液体空気などの実験見学（昭和20年9月12日）が行われている。また奥野教諭引率のもと、昭和20年8月30日、9月1日（台風来襲のため帰校不能で現地一泊）、9月3日の3回にわたり、大阪陸軍幼年学校へ軍から払い下げの顕微鏡（オリンパス製で新品同様）を受領に行っている。持ち帰った顕微鏡は生徒2人に1台ずつ専用として貸与され爾後の生物実験に重宝した。

片岡氏は、15台の顕微鏡のそれぞれの収納箱へ第1期生の氏名を2名ずつ墨書するよう奥野教諭から命ぜられた。教諭に理由を尋ねたら、出身校からの内申書に書道の成績が「秀」となっていたためだったという。放課後の生物教室（当時は「博物教室」と称していた）で同期生30名の氏名を記入したそうである。

個人保管の成績表や通知簿から、第1期生の採点対象教科は次であることが分かっている。

三年生の時点：国語、漢文、文法、歴史、地理、数学（1類、2類）、物象（1類、2類）、生物、体操、図画、工作、英語
 四年生の時点：公民、国語、漢文、歴史、地理、数学（1類、2類）、物象（1類、2類）、生物、体操、図画、工作、英語（甲類、乙類、作文）

これらの教科のうち、公民、地理、図画、工作について、片岡氏は、授業を受けた記憶がないようで、おそらく時間数が極端に少なかったのだろう。歴史・地理は、GHQの政策もあって戦後しばらくは授業がなかった。音楽、書道、武道は全く授業が行われなかった。教練は戦時中の必須科目で、三八式歩兵銃の重さと相まって強烈な記憶があるが、通知簿には評点がないそうである*。

(5) 進学

特別学級における授業は、正規学級では当然行われる上級学級受験を意識した内容を、かなり度外視したものであった。「実施要綱」にある「上級学校への進学については、別途これを考慮する」という決定事項が大前提とされたが、結果的に全く考慮されることはなかった。

*補足：第三学年の途中で終戦を迎え、途中でカリキュラムが変更されたり授業の読み替えが行われたりしていた可能性が高い（関連事項 第2章(1)カリキュラム）。その後、昭和22(1947)年3月20日に、学習指導要領一般編（試案）が発行される。

同様に特別科学教育をしていた広島高師附属中学校の、昭和21年3月の四年修了者の三高受験合格者数にも、上級学校への進学について配慮されなかったことが反映された結果となった。世間一般の予想に反し、19名中6名の不合格者を出した。これは当時の新聞に大々的に取り上げられ、特別科学教育は失敗であったという論まで飛び出す原因となった。

京都特別科学教育学級では、三高入学については、地元であったこともあり、優遇措置は全く望めないことは既に知られていた。しかしいったん動き出した流れを変えるのは何事においても難しく、京都一中の特別学級における授業はいわば「学究志向型」であり、進学のための「受験志向型」には修正されなかった。

入試合格のためには地道で万遍な合目的な勉強法が最善である。敢えてそれに迎合しなかった広島高師附属中学の結果はおこるべくして起こったものであり、また同様の方針を採った京都一中の特別学級四年修了者の三高受験者の合格率も、類似の結果となった。以上の事実は、上級学校進学についての配慮の有無が、将来このような特別教育制度を実施するときの大きな検討課題の一つであることを示唆する。なお、広島の場合も京都の場合も、中学四年修了者や五年卒業者の三高入試合格率は正規学級のそれを遥かに上回るものであった。(片岡, 2005)

京都の科学教育特別学級の生徒のその後について、片岡氏は次のように記述している。「当初の90名(及び若干の編入生)は、病気や帰省による中途離別者もあったが、全員が京大を始め東大や阪大などへ進学し、卒業後は各界で活躍。」(片岡, 2003, pp.5)

(6) 大戦後の保護者会ほか

大戦終了に伴い、京都帝国大学と京都一中関係者の関心事は、GHQからの特別科学教育制度停止の指令の可能性だったようである。京都帝国大学理学部物理学教室のサイクロトロンは昭和20年11月20日から23日までの作業で、進駐軍によって完全に撤去されていた。特別科学教育に対する圧力も懸念されたようであるが、戦争目的以外の科学技術を阻害する意図はGHQになく、それは杞憂に終わった。新日本の建設と世界への寄与という新たな目標に向かって行動することとなった。

他の科学学級においては特別学級を解散し生徒を一般学級へ戻したところもあったが、京都一中は存続させた。片岡(2005)から引用する。

「京都一中の特別学級においても創設以来最初の保護者会が昭和20年12月12日に開催され、京大の駒井理理学部長や京都一中の隈部校長から、現在までの経緯と将来の計画についての説明があった。第1回ということもあり時間も正午から午後6時まで延々6時間に亘って開催され、後半は各学年の担任との懇談会であった。以下に、当日の前半における駒井理理学部長と隈部校長からの説明内容を記載する。

まず特別学級生徒の知能については、それは正規学級のそれに比べ遥かに優れ概ね三高理科の生徒と同等であることが各種テストで証明され、理科系の科目の考え方や扱いは既に専門家の域に達しているものさえあるが、但し天才と称する程度のもは極めて僅かで、平均して英才という位置にあり、全員が楽しみつつ勉学にいそしんでいる。そのような説明があった。

また健康については、食糧事情の逼迫している現在、多少懸念すべきものがないとは言えず、この点については蛹から精製したビタミン剤などの配給を考慮している。一方では休養も考慮し、さきの夏休みは正規学級より少なかったのを、来るべき冬休みは4日早く休ませることを考えている。以上の様な方針が当日の説明であった。」(片岡, 2005)

片岡氏の記憶によると、ここで述べられているようなビタミン剤などの特別配給を受けた記憶はなく、そのほかにも食糧や栄養剤などが特別学級の生徒だけに支給された思い出もないと語っている。

§ 4. 湯川秀樹氏の関わり

湯川秀樹氏は、駒井卓氏とともに積極的に特別科学教育学級を推進した一人である。湯川氏が関わった特別科学教育学級の打合せや講演会等について、研究室日記と教務日記に記載のあったものについて項目と日時を以下の表にまとめた（京都府立京都第一中学校, 1945a, 1945b, 1946, 湯川秀樹, 1945, 1946a, 1946b）特別科学教育学級の入学試験は、湯川氏も面接と採点に加わっている。（最下段は、湯川氏は出席していなかったと思われる打合せ会等。）

案件	日時(昭和20年度, 太字は昭和21年度, 斜字は昭和22年度)
科学教育研究班打合せ・会合	3/26, 3/31, 4/16, 4/24, 5/24, 6/23, 7/7, 7/20, 7/28, 8/3, 8/24, 8/31(電話), 9/9, 9/14, 9/17, 11/12, 12/6, 3/9
文部省・広島の科学組	3/1, 5/14(三村教授面会), 5/15, 5/17, 11/8, 12/26
入試(子供の件を含む)	5/3, 5/4, 5/5, 5/6, 5/8, 5/9, 5/10, 5/11, 5/12, 3/24
入学式・講演会・授業参観	5/21, 5/26, 7/10, 9/12, 10/19, 5/31, 10/8
子供集団疎開	8/7, 8/8,
その他打合せ等(湯川氏によらない)	8/27, 10/27, 10/29, 11/1, 11/20, 12/7, 12/12, 2/12, 2/21, 4/16, 4/30, 5/10, 5/30, 9/27, 10/31, 10/15

表3 科学教育研究に係る打合せ・行事

§ 5. 駒井卓氏のメッセージ

京都特別科学教育班班長の駒井卓氏（京都帝国大学理学部長）は、特別科学教育学級の生徒に向けて「諸君に対する期待」という文章を残している。これは特別科学教育学級の解散直前に書かれ、第一期生のクラス会誌に駒井教授が寄稿されたもので、内容は特別科学教育学級の生徒に向けたメッセージとなっている。

諸君に対する期待

諸君は科学技術者になるのに適した素質を持っていると云う見込みで、特別の便宜を与えられて教育された人々である。尤も中には成長するに従って、物の考え方も違い嗜好にも変化を生じた人もあるかも知れない。そう云う人は必ずしも科学を生涯の仕事にする必要はない。文科や法科、経済科などの方向に向くのも結構だと思う。それでも恐らく諸君の多くは一般に比べて、良い頭を持っているであろう。そう云う点でやはり人より多くの期待を持たれるのが当然である。

諸君のために特別な学級が設けられたのは、要するに日本の科学技術界に人材を供給するた

めであった。この必要は国情がどうなっても少しも変わらない。殊に日本民族が文化的活動によって人類に貢献することが内外から期待されることが多くなった今日では、このような人材の要求は前より一層加わったと云わねばならない。

しかし気の毒なことには、諸君に対する要求がこのように強くなったのに、環境条件は逆にひどく悪くなった。生活費も学費もむやみに高くなり、学校の状況は変わってしまい、参考書は得がたく、研究用資材は乏しくなった。それでいて元の状態より更に昇ることを要求されるのだから、無理も甚だしいのである。

けれども何と云っても、日本人の名誉と地位を取り戻すのは、これより他に道はない。そう云う意味で、この無理を克服すべく諸君の奮起すること（を）望みたい。私は諸君に維新前の蘭学者たちの努力を思い起して、再び「事始め」の覚悟を持つことを願うのである。

今一つ私がこの頃痛感するのは、同胞のたわいなさである。軍国主義が笛を吹けば、どんな踊りでもおどる。一度風向きが変わって民主主義となると、どこまででも我がまゝを押し通してよいと思う。この後どんなものが入ってどんな風になるか、心細い限りである。かの帝銀事件は日本人のよい見本であるが、率直に云えば、大脳の作用の停止した人間の状態である。要するに頭がからであるからで、人間として頗る恥しいことと云わなければならぬ。諸君の頭は今後一般より遙に充実され（る）だろうが、それを資本にして、この同胞の憐むべき状態を啓蒙して貰いたいものである。日本の立ち直りにはこれが何より大切である。

尤も注意すべきことは、頭にやたらに雑多なことを詰め込むだけでは、「話の泉」の時に、良い点を取る位のことで、それでも一冊の百科事典に敵うものではない。要するにこの知識が諸君の知能のはたらきに役に立つものでなければならぬ。即ち科学知識を貯えるだけでなく、科学精神を体得することが必要である。これがあれば新しき事態に会っても適当な批判ができ、たやすく扇動者の笛に踊らされたり、圧制者の鞭に駆り立てられることをしないであろう。そして自信を以て同胞を正しい方向に導くことができるに違いない。

原文の欠字を（）付きで挿入

（京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組，2007）

§ 6. 生徒のその後

京都特別科学教育学級の第一期生出身中学は、京都府以外に、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県そして福井県から来ていた。入学後は交通途絶による通学困難を想定し、学校の近くに居住することとなっていた。住所は京都市左京区14名、京都市上京区14名、京都市中京区1名、京都市伏見区1名であり、皆、京都市内に居住又は下宿していた（片岡，1945）。

第1期生の出身中学、進学先とその後の職業、第2期生・第3期生の出身中学と進学先、また、第1期生から第3期生の進学先集計を掲載する（表4，表5）。これによると、第1期生は進学者28名全員が東京大学・京都大学・大阪大学のいずれかに進学しており、そのうち文科系学部（法・経済・文学）に進んだものはわずかに2名である。また、第1期生から第3期生の進学者89名のうち、85名が東京大学・京都大学・大阪大学のいずれかに進学しており、そのうち理科系学部に進んだものは、73名～75名（82%～85%）である。

京都特別科学教育学級 進学先

第1期生

第2期生

第3期生

氏名(略)	出身中学	進学先	職業	氏名(略)	出身中学	進学先	氏名(略)	出身中学	進学先
1	京都一中	東大・法・司法	繊維系企業	1	京都五中	京大・工・工業化学	1	桃山中	阪大・工
2	松原中	京大・医・精神科	京都医療少年院	2	福井中	東大・工・機械	2	京都一中	京大・理・物理
3	京都一中	京大・工・機械	航空機械関係企業	3	京都一中	京大・理・数学	3	京都一中	京大・経済
4	京都一中	京大・理・物理		4		京大・工・工業化学	4	京都五中	京大・法
5	神戸一中	阪大・医・整形外科	大学病院	5	京都一中	京大・法	5		東大・経済
6	高津中	阪大・理・数学		6	広島高師附	東大・法	6	神戸三中	京大・工・繊維
7	神戸一中	阪大・工・通信工学	大学(工)	7	京都一中	京大・工・機械	7	京都一中	京大・工・土木
8	郡山中	京大・医・薬学	薬学系企業	8	京都三中	京大・理・物理	8	京都三中	京大・工・電気
9	彦根中	京大・農・農林生物	大学(造船)	9	京都五中	逝去	9	京都一中	逝去
10	茨木中	逝去		10	京都一中	京大・工・機械	10	京都三中	京大・工・化学機械
11	京都一中	東大・工・応用化学	工業系企業	11	松原中	京大・理・化学	11	福井中	京工大・繊維
12	京都一中	京大・理・化学	企業研究所	12	京都一中	京大・理・数学	12	京都五中	京大・工・土木
13	天王寺中	京大・工・電気	電気系企業	13	京都一中	京大・理・数学	13		逝去
14	桃山中	東大・工・船舶工学	工業系企業	14	京都五中	慶応大	14	豊中中	京大・工・電気
15	京都一中	京大・医・産婦人科	開業医	15	神戸一中	東大・工・電気	15	京都五中	京大・工・電気
16	京都五中	京大・工・鉱山	工業系企業	16	京都三中	京大・理・数学	16	京都一中	京大・理・動物
17	池田中	東大・医・整形外科	開業医	17	京都一中	京大・理・数学	17	京都五中	京大・工・土木
18	京都三中	逝去		18		東大・工	18	京都一中	京大・工・工業化学
19	日高中	京大・理・物理	電子系企業	19	北野中	阪大・理・化学	19	堺中	東大・法
20	郡山中	阪大・理・化学	電気系企業	20	甲陽中		20	富田林中	逝去
21	水口中	京大・工・繊維化学	製紙系企業	21	京都三中	京大・理・化学	21	京都三中	京大・医・薬学
22	姫路中	京大・理・数学	大学(数学)	22			22	福井中	東大・経済
23	虎姫中	東大・理・物理	大学(工)	23	堺中	京大・文・哲学	23		逝去
24	膳所中	京大・工・建築	大学(防災)	24	住吉中	京大・法	24	京都一中	京大・工・建築
25	今宮中	京大・工・応用物理	大学(理学)	25	京都一中	京大・理・数学	25	京都一中	京大・理・宇宙物理
26	京都一中	京大・工・電気	通信系企業	26	粉河中	神戸大	26		逝去
27	武生中	京大・工・電気	電気系企業	27	五条中	東大・農・農林土木	27	福井中	東大・医
28	京都一中	京大・理・化学	化学系企業	28	京都三中	京大・工・工業化学	28	京都一中	京大・工・電気
29	畷傍中	東大・経済	化学系企業	29	京都一中	京大・医・産婦人科	29	神戸一中	逝去
30	舞鶴中	京大・医・産婦人科	開業医	30	京都二中	京大・理・動物	30		京大・経済
				31	神戸二中	京大・法	31		東大・工
				32	京都三中	京大・理・動物	32	京都一中	京工大
				33		東大・法	33	京都一中	逝去
				34	京都一中	京大・理・化学	34	京都三中	東大・農
				35	神戸中		35	神戸三中	逝去
				36	彦根中	京大・工・建築	36	京都一中	京大・農・農学
				37	桃山中		37	京都一中	京大・工・化学繊維

京都特別科学教育学級 進学先集計

大学	学部	第1期生	第2期生	第3期生
東京大	法	1	2	1
	経	1		2
	医	1		1
	理	1		
	工	2	3	1
京都大	農		1	1
	法		3	1
	経			2
	文		1	
	医	4	1	1
大阪大	理	4	12	3
	工	8	6	12
	農	1		1
神戸大	医	1		
	理	3	1	1
京工大	工	1		
慶応大			1	
合計		28	32	29

表4 (上) 京都特別科学教育学級進学先

第1期生, 2期生, 3期生

表5 (左) 京都特別科学教育学級進学先集計

また, 第1期生は28名のうち5名が医者になり, 7名が大学の研究者になり, 企業で研究職についているものもある. 企業のなかでの役職は分かり難いが, 総じて多くの卒業生が医者, 研究職・技術職に就いている. (京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組, 2007.)

§ 7. おわりに

前回の調査で, 京都における特別科学教育学級の成り立ちがほかの科学組と異なっていたこと, また, 京都市の判断で国が打ち切りを決めた後も, 科学組を延長して存続させていたことが分かっていた. 今回, 公文書には残り難い実際の科学組の運営や授業内容の断片, 生徒のその後などを, インタビュー調査や同窓会資料等に基づいて調査し, まとめた.

(1) 授業

授業では、試験問題から分かるように、解が一つに決まらないオープンエンドな問題を扱っていたり、自由研究などの生徒主体の探究的な学びがふんだんに取り入れられたりした。科学組のなかでも京都は、京都大学が主導しており、学究的色彩が色濃く出ている。元生徒の片岡氏は「受験志向型」に対する「学究志向型」であったという言葉で述べているが、深い思考を促す探究型の学びが行われていた。

「学校の授業でも、行列式、三角函数、対数、初等射影幾何学、立体幾何学、球面三角法など、他のクラスで習わないようなことも詳しく教えられ、物理学でも京大の今川先生の力学の講義は、速度を微分で定義し、放物体の運動も、グラフを使った積分法で運動方程式から求めるなど、大変印象的であり、そのあと林忠四郎先生の力学、酒井直治先生の気体運動論なども印象に強く残っている。」（荒木、1988）のように内容が深く、高度であっただけでなく、

「例えば歴史は皇国史観とは正反対の、当時は発禁本の津田左右吉著『古事記及び日本書紀の新研究』に基づく大和朝廷の赤裸々な史実の講義であったし、漢文は唐詩選などを出典とする自由主義的傾向のものから男女の機微に関するものまで幅広く教材となった。」（片岡宏、2003）というように、戦時下でありながらリベラルで、ある意味教養を重視した授業内容でもあった。

たとえば金沢にあった科学組の自由研究のテーマにみられる「模型飛行機製作」「電車製作」「新鋭魚雷製作」「潜水艦製作」といった内容ではなく、全般的に学究志向的な内容の学びが行われていた。このことの背景には、班長であった駒井卓氏が生物研究者、湯川秀樹氏が実験物理ではなく理論物理学者であったことが関係していると考えられる。湯川氏は、直接この特別科学教育学級について述べた言葉はないものの、小沼通二氏は、当時の湯川氏の考えについて「湯川は、自分が最も貢献できるのは基礎科学の研究と教育、啓蒙だと、確信を持ち続けて実行していた。」と述べている（小沼、2020b）。（湯川氏は昭和十六年年末の日記に「歳末の感：『真の勇者』 個人として特にいうべきことはない。唯々もう国家の運命に伴って進んで行く丈である。併し国家に於ける各人の役割について常に深い反省を怠ってはならない。」「私自身の場合には結局『真理探究の道をどこまでも行く』というより他に、より有効に国家に報いる方法はないのである。」と記している）（小沼、2020b）。

(2) 進学

科学組は限定的ではあるが、失敗だったと結論付けられている。文部省は、「国民学校、中等学校に於ける科学教育進展の隘路は教職員の研究指導力の欠如にありと認めらるる故大学の熱意ある教授、助教授を煩わして之等教職員に再教育を施したし」（昭和二十年十二月二十六日、京都帝国大学理学部 昭和二十年教授会議事録）とある。また、藤岡由夫は負担の過重な理数系の授業の生徒に及ぼす影響や上級学校進学問題においては、特別科学教育は失敗したと、限定的ではあるが述べている（昭和42年11月2日朝日新聞）。子供の頃から目的を定めた教育をするのは、教育の自由に反するという、不具的な教育は不可であるということなどが論ぜられたとも書いている（藤岡由夫、1967）。

科学組では科学技術系人材の育成が行われ、京都の場合は、理系への進学者が3年間で85%以上であり、また非常に高学歴である。そして第1期生は2名を除くすべてが大学進学時に理系を選択し、さらにその後の進路を辿ると、医者、大学研究者、技術者の職に就いた者の割合が非常に高い。これは本当に教育の在り方として失敗だったと言えるのだろうか。

子どもの目線に立って見れば、「先生方の教え方には随分と味があり含蓄があった。あのような敗戦前後の混乱期、今だに印象に残る得難い授業の機会に恵まれた我々は幸運であった。」「それぞれの先生方の真摯な教育姿勢と懇切丁寧な授業ぶりには感銘を受け、得るところが多かった。」「一中の先生方は、教えることが楽しくて仕方がないという様子があり、それが我々に伝わってきました。それは教科書もない手探りの授業だから、先生方は自分で一番よいと思われる教え方を工夫しておられたのだと思います。」などと、元生徒のほとんどが科学組時代をよい思い出として振り返っていることから、非常に良好な学校生活であったと考えられる（京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組，2007）。教師は子どもたちに親身に接し、熱心に指導し、生徒も教師にあだ名をつけて慕っており、発言にも態度にも子どもらしい自由さが認められ、生徒と教師がともに良好な関係であったといえる。さらに実験器具等の設備も配慮され、当時としては非常に良質な学習環境だったといえる。

科学組の成り立ちは帝国議会における建議に基づいて設置されたもので、あくまでも戦争がきっかけとなっていたことに間違いはない。

駒井卓氏は敗戦後、「諸君のために特別な学級が設けられたのは、要するに日本の科学技術界に人材を供給するためであった。この必要は国情がどうなっても少しも変わらない。」と述べた。少なくとも京都帝国大学はそう考え、そして京都市はそれを後押し、戦後も存続させた。

科学組のあった3年間は、日本における教育の在り方を考える中で、科学技術教育に特化した教育を実施した最初の一時点であったと考えられる。探究的学び、解が一つに定まらない問題の提示、自由研究、大学へ子ども自らアポイントを取って足を運ぶことなど、子どもが主体となって学ぶ教育の在り方は、現代では推奨されている学びである。

これまで、戦中・戦後の教育を論じることは、どちらかと言えばタブー視され、敢えて目をむけてこなかった歴史があると感じている。今後の科学技術教育を考える点で、当時の思想ではなく、教育の中身やその実践に光を当て、日本における科学技術教育を一考するために活かすことが必要ではないかと考える。

謝辞

本研究は京都大学における国際共同利用・共同研究拠点である数理解析研究所の共同研究（公開型）の支援を得て行われたものであり、ここに感謝申し上げます。また、元科学組の生徒である片岡宏氏、京都大学大学文書館、京都大学基礎物理学研究所、京都府立洛北高等学校同窓会事務局の皆様、初校の誤りを指摘して下さった査読者に、謹んで感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 荒木不二洋（1988）．特集／私の数学観「趣味から職業へ」．数学セミナーリーディングス．数学セミナー増刊．日本評論社．146-147．
- 藤岡由夫（1947）．「科学特別教育（いはゆる英才教育）の記録」．科学教育論．附録．河出書房．
- 藤岡由夫（1967）．「戦時中の科学特別教育」．朝日新聞．

- 片岡宏(1945). 京都特別科学教育研究班第一期生名簿. (元生徒片岡宏父作成・配布).
- 片岡宏(2003). 「戦時下の特別科学教育について」. 京都大学 大学文書館だより. 第4号. 4-6.
- 片岡宏(2005). 「京都帝国大学主導の特別科学教育について」. 科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究代表者 岩坪秀一. 研究成果報告書「学力における特異型と万能型の生徒に対する早期教育の比較研究—過去の諸制度下で早期教育を受けた者の追跡研究を中心として—」課題番号 14310142. P63-88
- 京一中百周年洛北高校二十周年記念事業委員会(1972). 京一中洛北高校百年史. 京一中百周年洛北高校二十周年記念事業委員会.
- 京都大学百年史編集委員会(1997). 京都大学百年史. 京都大学百年史編集委員会.
- 京都府立京都第一中学校(1945a). 昭和二十年度特別科学教育学級教務日誌. 京都府立洛北高等学校.
- 京都府立京都第一中学校(1945b). 昭和二十年度教務日誌. 京都府立洛北高等学校.
- 京都府立京都第一中学校(1946). 昭和二十一年度特別科学教育学級教務日誌. 京都府立洛北高等学校.
- 京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組(2007). 京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組会誌. 京都府立京都第一中学校昭和二十年特別科学学級三年七組クラス会.
- 京都帝国大学理学部(1945). 昭和二十年教授会議事録. 京都大学文書館.
- 京都帝国大学理学部(1945). 京都特別科学教育研究班受験票. (片岡宏所蔵).
- 小沼通二編(2020a). 「湯川秀樹日記 1945 京都で記した戦中戦後」. 京都新聞出版センター.
- 小沼道二(2020b). 「湯川秀樹の戦争と平和」. 岩波ブックレット No. 1029.
- 文部省(1972). 学制百年史(資料編). 文部省.
- 衆議院事務局(1944). 第85回(臨時)帝国議会 衆議院報告. 印刷局.
- 鈴木一正(1991). 「特別科学組の実施から打ち切りまで」. 福岡教育大学紀要. 第40号. 377-394.
- 鈴木一正(1995). 「特別科学組の実施から打ち切りまで(続き)」. 福岡教育大学紀要. 第44号. 第4分冊. 359-374.
- 田中紀子(2019). 「戦時下の特別科学組」第30回数学史シンポジウム. 津田塾大学数学・計算機科学研究所報
- 田中紀子(2021). 京都における特別科学教育学級の記録. RIMS 講究録別冊 B85. 93-116
- 湯川秀樹(1945). 「研究室日誌 昭和20年9月~21年3月 XI」(s04-19-17)
- 湯川秀樹(1946a). 「研究室日誌 昭和21年3月~8月 XII」(s04-19-18)
- 湯川秀樹(1946b). 「研究室日誌 昭和21年8月~22年2月 XIII」(s04-19-19)

【RIMS 講究録別冊 B85 修正について】

P114. 4行目 「湯川氏は京都帝国大学の学生については特攻隊の係で、自分の学生たちは戦争に送り出しつつ、科学組には駒井氏と共に頻りに足を運び、非常に熱心だったことは、当時の状況から考えると異常なまでだろう。近くで関わっていた元教師は後に「湯川先生の御執心は教育無視の時代への憤りとも拝察された。」と述べている。」との記載は誤りであ

り、正しくは「湯川氏は京都帝国大学学徒隊組織表によると、理学部特技隊の隊附であった（京都帝国大学理学部，1945）。同時期に科学組には駒井氏と共に頻繁に足を運び、非常に熱心だった。近くで関わっていた元教師は後に「湯川先生の御執心は教育無視の時代への憤りとも拝察された。」と述べている。」です。筆者の誤読（特技隊を特攻隊と誤読）により生じたミスであり、関係各位に陳謝致します。

以下に京都帝国大学学徒隊に関わる関連記載項目を記述します。

関連記載項目

学徒隊規則(一九四五(昭和二〇)年七月一二日)(京都大学百年史(1997) pp. 430 より抜粋)
京都帝国大学学徒隊規則

第五 編成

第五条 本隊総長ハ京都帝国大学総長之ニ当ル

総長ハ本隊ヲ統率ス 総長事故アル時ハ年長ノ学部長之ヲ代理ス

第六条 本隊ハ本部、各学部ニ編成スル学部隊及其他ノ各部局ニ編成スル部局隊ヨリ成ル
附属医学専門部ニ医学専門部隊ヲ編成シ其ノ運営ハ学部隊ニ準ズ
学部隊及部局隊ニ夫々隊本部ヲ置ク

学部隊及部局隊ハ其ノ隊員ノ数ニ応ジ若干ノ大(中)隊ヲ編成スソノ編成ノ基準ハ別ニ之ヲ定ム

第七条 学部隊ハ学部本隊ト学部枝隊ヨリ成ル

学部本隊ハ当該学部ニ属スル教授、助教授、講師、教務職員及其ノ所属大学院学生、学生生徒ヲ以テ編成ス

学部枝隊ハ学部本隊ニ所属セザル当該学部職員ヲ以テ編成ス

第八条 総長ハ時宜ニ依リ学部隊及部局隊ニ特技隊ヲ編成ス

特技隊ハ戦時ニ必要ナル特技ヲ有スル教官、職員及、学生生徒ヲ以テ編成ス ソノ編成ハ別ニ之ヲ定ム

京都帝国大学学徒隊組織表（京都帝国大学理学部昭和二十年教授会議事録より引用）

京都帝国大学学徒隊組織表

